

学校現場における体験活動

取組名称：	子ども学実践演習（必修、1年通年、2単位）
方 法：	10人の教員のオムニバスで通年（30回）の授業を展開する。担当教員から、前年度までに佐賀市内の小学校に依頼して承諾を得た学校を対象を限定し、小学校教諭と連絡調整を図りながら、計画的な授業観察やフィールドワークを行う、
内 容：	小学校教育現場での短期インターンシップや授業参画など、フィールドワークを中心とした活動を展開することにより、授業観察力、授業分析力、授業開発力・授業力・省察力などの高度な実践的指導力を養うことを目的とする。最初の3時間において、この演習の意義や意味を確認するとともに、授業観察、授業分析方法や、授業開発力、授業力、省察力に関する基礎的知見を教授する。その後、各3回の各教科に関する専門的な実践力について検討する。なお各領域・教科の演習では、その教科の授業観察及び授業分析を各フィールドにおいて行う事とする。これらを踏まえ、最後の6回は、授業観察及び授業分析等のフィールドワークを行うとともに、実際に授業を構想し、反省的検討会を含む模擬授業演習を行い、実践力を養う。

教職指導の状況

入学時のオリエンテーションにおいて、小学校教諭一種免許状を保持する入学者に対し、子ども学専攻で取得できる小学校教諭専修免許状の概要について説明を行う。その際に、教員養成をめぐるわが国の動向や学校現場の状況について具体的に説明し、今後修士レベルへの引き上げがめざされていることを述べて、専修免許状取得の意義を理解させる。次いで、子ども学専攻の3つの履修モデルを説明し、小学校専修免許状の取得をめざす学生は、「小学校教育指向型」のモデルを参考に履修科目を選択するよう指導する。また、大学院終了後に小学校への就職を希望する学生に対しては個別の相談に応じ、教員採用試験受験を視野に含めて二年間の継続的な指導を行う。